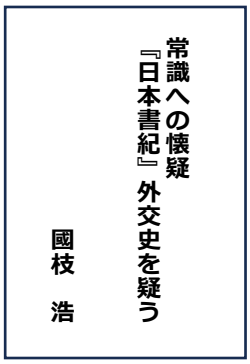
新刊紹介

東京古田会会員の國枝浩氏が「アマゾン　キンドル」から初出版しました。
東京古田会などに発表してきた論考の一部を集約したものです

『日本書紀』外交史を疑う 常識への懐疑

國枝　浩 (著) 形式: Kindle版（電子書籍）　￥1.000

ネットで「アマゾン　キンドル　國枝浩」で**「常識への懐疑　『日本書紀』外交史を疑う」**が出てきます。
「サンプルを読む」をクリックし、目次と「はじめに」を読むことで、概要が分かります。
電子書籍ですのでネットでの購入手続になります。



本書は『日本書紀』の外交史の真偽を論じる。
その際の外国とは**第一には中国**であり、**中国の史書に照らして『日本書紀』の対中国国交史が虚偽であることを証明していく。**さらに、外国の第二は蝦夷国」を指す。蝦夷国はヤマトの王権にとっては侵略の対象として登場する。
『日本書紀』だけでなく『続日本紀』においても、「広大で、肥沃な土地の」蝦夷国は侵略の対象として描かれている。
中国の『通典』『唐会要』においても、蝦夷国は、高句麗国、百済国、倭国と並ぶ「国」であったことは銘記すべきであろう。
そして、**『日本書紀』の虚偽性はこれらの国交史に顕著に現れている。**このことなどを中心に日本の古代史の一般的見解に対して疑問を提出し、真実の歴史像に近づくための基礎を据えたいと考えている。著者の思いが詰まつた一書です。
読んで頂きご意見等を頂ければ幸いです。